

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 3  
2016. 7

TOPICS

1

## 世界2例目 脳死・生体肺同時移植に成功

岡山大学病院は7月17日、特発性間質性肺炎を患う男性への両肺移植手術で、右肺に脳死した人からの肺、左肺に生きている人の肺(左肺下部の「下葉」)を同時に移植する「ハイブリッド移植」に成功しました。昨年4月に岡山大学病院が初めて成功した手法で、今回が世界で2例目です。

手術は同日、臓器移植医療センターの大藤剛宏教授を執刀医とするチームが担当。約9時間かけて、脳死ドナーから提供された肺と生体ドナー(男性の息子)から提供された肺の一部を移植しました。男性は2012年に「特発性間質性肺炎」と診断され、2015年に別の医療機関で移植登録していましたが、ハイブリッド移植手術を受けるため、移植登録施設を岡山大学病院に変更し、待機していました。

大藤教授は「今回で2例目となるハイブリッド移植手術であるが、今後も本術式により待機中の死亡患者を減らし、少しでも多くの患者を移植へとつないでいきたい」と話しています。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id5934.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5934.html)

## 駐日欧州連合(EU)大使による講演会 「世界における欧州の高等教育」を開催

TOPICS

2



本学は6月29日、欧州連合(EU)のヴィオレル・イスティチョアイア＝ブドウ駐日大使を招き、講演会を開催しました。

講演会に先立ち、大使は本学の森田潔学長を表敬。本学の教育研究体制等について説明を受けた後、役員や教員、留学生らと意見交換を行いました。

「世界における欧州の高等教育－我々を結びつける関係の強化」と題し、創立五十周年記念館で開催された講演会には、学内から約250人が参加。大使は、EUの成り立ちや経済的・社会的功績、戦略的パートナーとしての日本との友好関係等に触れた後、EUが欧州の高等教育において果たしてきた役割や日本との学術協力の成功事例等を紹介しました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id5905.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5905.html)

### 最近の大学の取組

## 「岡山大学・フエ大学院特別コース」10周年記念行事を開催



本学は7月19日、本学とベトナム・フエ大学の修士共同プログラム「岡山大学・フエ大学院特別コース」が10周年の節目を迎えたことを記念し、コースで学ぶベトナム人留学生への奨学金支援を行う里親企業の代表者、フエ大学関係者等を招き、10周年記念行事を行いました。

同コースは、ベトナムにおける農学系、環境系分野で即戦力と成りうる優秀な人材を育成することを目的として2007年に設置されました。ベトナム人留学生は、ベトナムで1年半の教育を経て、本学大学院環境生命科学研究科の博士前期課程2年次に転入学。本学で修士の学位を取得します。コースの趣旨に賛同した協賛企業・個人と、留学生を一对一の関係で結びつける里親制度を採用し、地域の企業等と連携して人材育成を行っています。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id5955.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5955.html)

## リオ五輪 卓球競技の競技役員に瀬田教授が抜擢

本学大学院教育学研究科の瀬田幸人教授が、ブラジル・リオデジャネイロで8月5日に開幕するリオ五輪において、卓球競技の競技役員に選出され、レフェリー代理(副審判長)として参加します。瀬田教授は「オリンピックのレフェリーチームに選ばれて光栄です。スムーズな試合進行や公平なジャッジについての判断のほか、用具や服装面にも気を配りたい」と意気込みを語りました。

レフェリー代理は、レフェリー(審判長)とともに、世界中から選り抜かれた26人の審判員を統括。選手が使用する用具や服装をチェックするほか、選手と審判員がもめた場合に最終的な判断を下すという重要な職務を担っています。リオ五輪では、レフェリー1人とレフェリー代理4人が世界の5つの地域(ヨーロッパ、北アメリカ、ラテンアメリカ、アジア、オセアニア)から1人ずつ抜擢され、瀬田教授がアジア代表に選出されました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id5961.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5961.html)



## パワーリフティング世界大学ワールドカップで 本学の学生が優勝！団体も4位入賞

ベラルーシのミンスクで開かれた第1回世界学生パワーリフティング選手権大会(7月11~17日)に、本学ウェイトトレーニング部の6人が日本代表として参加しました。男子59kg級で、本学法学部4年の木村和正選手が優勝。世界チャンピオンになった木村選手は、「第1回目の世界学生大会で優勝することができて本当に嬉しい」と喜びを表しました。男子74kg級に出場した本学農学部4年の藤村勇太選手も5位に入賞し、「私にとって初の世界大会。多くの方のお力添えで参加できたことに感謝したい」と語りました。

また、団体戦ではケンブリッジ大学やメルボルン大学など世界的に著名な29校が参加する中、本学は第4位という素晴らしい成績を収めました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id5947.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5947.html)



## 腫瘍融解ウイルスが 骨肉腫に対する抗がん剤治療効果を増強

岡山大学病院新医療研究開発センターの田澤大助教、本学大学院医歯薬学総合研究科消化器外科学分野の藤原俊義教授、整形外科分野の尾崎敏文教授らの研究グループは、腫瘍融解ウイルス「テロメライシン」が、がん細胞内のマイクロRNA-29を増加させ、細胞死を抑制するたんぱく質MCL1を阻害することで、骨肉腫に対する抗がん剤治療の効果を増強させる分子メカニズムを明らかにしました。

本研究成果は6月30日(英国時間午前10時)、英国の科学雑誌『Scientific Reports』(Nature Publishing Group)電子版で公開されました。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id403.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id403.html)



## イネ種子への銅輸送体タンパク質を発見

本学資源植物科学研究所の馬建鋒教授と英国のアバディーン大学 David Salt(デビット ソルト)教授らの研究グループは、異なるイネ系統の種子中の銅の濃度の違いを解析。イネ種子への銅の蓄積に関わる輸送体タンパク質「OsHMA4」を世界で初めて突き止めました。

本研究成果は7月8日、英国の科学雑誌『Nature Communications』で公開されました。

本研究成果により、種子中の銅濃度を高めた作物の開発につながると期待されます。

参考 [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id404.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id404.html)

